

平成 18 年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会
森林生態系部会
議事概要

◆日 時 平成 18 年 12 月 18 日 (月) 9:30~11:30

◆場 所 春日野荘 故傍の間

◆出席者

<委 員>

| | |
|--------|---------------------------------|
| 井上 龍一 | 奈良教育大学附属小学校 教諭 |
| 川瀬 浩 | 日本野鳥の会奈良支部 副支部長 |
| 木佐貫 博光 | 三重大学 助教授 (ご欠席) |
| 佐久間 大輔 | 大阪市立自然史博物館 学芸員 |
| 高田 研一 | 高田森林緑地研究所 所長 (ご欠席) |
| 野間 直彦 | 滋賀県立大学 講師 |
| 日野 輝明 | 独立行政法人森林総合研究所関西支所 野生鳥獣類管理チーム長 |
| 日比 伸子 | 樫原市昆虫館 学芸員 |
| 前田 喜四雄 | 奈良教育大学教育学部附属自然環境教育センター 教授 (ご欠席) |
| 松井 淳 | 奈良教育大学 教授 |
| 村上 興正 | 元京都大学 講師 |
| 横田 岳人 | 龍谷大学 講師 |

<関係機関>

林野庁近畿中国森林管理局、

| | | |
|-----------------|---------|-------|
| 計画部計画課 | 森林施業調整官 | 上村 邦雄 |
| 計画部指導普及課 | 技術開発主任官 | 鳥谷 和彦 |
| 奈良県農林部森林保全課 | 係長 | 白井 実 |
| 上北山村地域振興課 | 課長 | 中崎 和徳 |
| 吉野きたやま森林組合上北山支所 | 参事 | 森岡 哲也 |
| | 技師 | 下吉 博之 |

(以上敬称略)

<事務局>

| | | |
|----------------|-----------|-------|
| 環境省近畿地方環境事務所 | 統括自然保護企画官 | 小沢 晴司 |
| | 自然保護官 | 西野 雄一 |
| | 自然保護官 | 石川 拓哉 |
| 吉野自然保護官事務所 | 自然保護官補佐 | 田中 綾子 |
| (財) 自然環境研究センター | 主席研究員 | 永津 雅人 |
| | 研究員 | 岸本 年郎 |
| (株) 環境総合テクノス | 環境共生部リーダー | 樋口 高志 |
| | 環境共生部 | 保延 香代 |

◆議事

- (1) 平成18年度調査・事業について（中間報告）
- (2) ニホンジカ保護管理部会報告
- (3) その他

◆議事概要

(1) 平成18年度調査・事業について

(植物調査)

- ・ 植生モニタリング調査について、データの整理方法に工夫が必要である。防鹿柵内外の有意差を9個のサンプルの平均としてみているが、統計的検定を行うなどデータの整理方法を検討する必要がある。
- ・ 実生生育基質調査については、基質（倒木・根株）におけるコケの生育状況を把握した上で、実生の生育とコケの種類の関連性を整理する必要がある。
- ・ 植物相調査については、外来種に留意して整理する必要がある。
- ・ ミヤコザサの被度・高さと実生の生存率の関連性等については、重要なデータが得られているので、それらをわかりやすく表現できる図表を作成する必要がある。
- ・ 実証実験の効果確認調査については、調査結果の概要のみでなく、各タイプ・調査区における詳細な結果を示す必要がある。

(動物調査)

- ・ 動物調査については、今年度でモニタリング調査項目が一通り終了し、それぞれの特性等について大方把握することができた。今後は、生息環境についての解析も必要である。
- ・ 動物モニタリング調査結果については、参考情報として、その地点の植生状況がわかるように整理する必要がある。
- ・ タイプIV（トウヒ-コケ密）は、哺乳類調査（ネズミ類）で最も多くの種が確認されており、哺乳類から見ても多様性の保全上で重要であると考えることができる。
- ・ 環境選好性が異なり、競合等の種間関係のあるヒミズとヒメヒミズが確認されており、既存の文献等を参考とした上で、今後注目していく必要がある。
- ・ 昆虫類調査については、まず3年間で得られたデータを整理、解析する必要がある。また、採取したサンプルについては、貴重な資料として活用を図る必要がある。
- ・ 昆虫類については、今後、地域特性把握に重点を置いた調査が必要ではないか。
- ・ 昆虫類調査については、評価が重要である。3年間のデータをとりまとめた上で、評価手法や今後の方向性等について議論する必要がある。
- ・ 両生類については、乾燥化等による生息環境の変化が繁殖に影響を及ぼす可能性があり、今後、水系分布等との関連性を把握する調査が必要である。また、目撃情報等の定性的なデータも重要である。

(森林生態系保全再生手法の検討)

- ・ 森林生態系保全再生計画の見直しに向けて、調査結果のとりまとめ方法、評価のあり方及び今後の方向性について、今年度からワーキンググループによる検討を始めた。今年度のワーキンググループの検討結果は、次回の部会に資料として提示し、その中で議論することにしたい。

(2) ニホンジカ保護管理部会報告

- ・ 大台ヶ原周辺地域（人工林）における植生調査や植生管理（間伐の推進等）は重要である。
- ・ 周辺地域における各調査については、今後、関係機関が連携して調査方法・時期等を統一する必要がある。
- ・ 防鹿柵については、計画的な整備が必要である。

[文責：近畿地方環境事務所]